

宗教意識に見るインドの独自性

二階堂晃祐 調査科学研究センター 特任研究員

調査の概要 本調査では、2004年から2009年に10の国や地域を対象に行われた環太平洋価値観国際比較調査の一環として2008年に実施されたインド調査の結果のうち、特に宗教意識に焦点を当てた上で他国と比較し垣間見えてくるインド社会独自の文化的特性や価値観をまとめてみた。調査実施にあたっては大都市圏しか対象に含まれなかった事、また一定の階層以下の人は省かれてしまった事など、完全にインド全国を母集団としているとは言い難い面もあるが、それでもインド国外の調査機関が複数都市にまたがる大規模調査(N=2002)を無作為抽出に基づいて行った意義は大きいと考えている。今後の、日本の調査機関による南アジア地域のより詳しい理解へのきっかけとなっていけば幸いである。

まず、宗派別の内訳は以下の通りである一明らかに人口比でイスラム教徒が少なく、これは今後の調査での課題でもあろう：
 ヒンズー教=84.9%、イスラム教=2.9%、キリスト教=3.7%、仏教=0.8%、
 シーク教=1.8%、ジャイナ教=0.7%、DK=5%

表1: 「信仰」 vs 「宗教的な心」

表1からも分かるように、インドでは全体として、特定の信仰を持っている、という意味では宗教心が高いと言えるだろう。一方、信仰を持っているかに関わらず、より広い意味での「宗教的な心」は大切か、という問いには16.7%の人が大切でない、と答えておりこれは過去の調査の中でも最も高い数値の一つである。日本における宗教意識の特性として一つ、宗派を持つという意味での信仰の度合いは低いがそれと比較すると「宗教的な心」は大切とする人が多い事が上げられるが、インドでは対照的な結果となっている。

	信仰の有無			宗教的な心大切		
	はい	大切ではない	分からない	大切	大切ではない	分からない
India 2008	74.4	16.7	1.4	4.3	3.0	0.2
ITALY 1992	80.7	4.9	2.4	5.3	5.2	1.6
USA 2006	69.4	7.7	2.4	6.9	11.3	2.3
Singapore 2007	67.4	8.1	3.3	7.0	12.3	1.8
FRG 1987	55.6	16.8	5.1	3.2	17.2	2.2
Taiwan 2006	58.0	5.5	1.3	20.4	12.4	2.3
UK 1987	48.0	14.2	3.0	10.5	22.3	2.0
FRNCE 1988	51.9	10.9	2.0	10.9	22.3	1.9
NL 1993	41.4	13.5	4.7	9.0	25.9	5.5
South Korea 2006	51.1	1.5	1.1	27.0	13.5	5.9
Hong Kong 2006	31.2	5.1	2.1	32.4	21.6	7.7
Japan 2004	27.3	0.5	0.5	44.9	15.3	11.5
Shanghai 2006	17.1	5.2	5.5	15.5	35.1	21.6
Beijing 2006	9.4	3.1	1.2	30.0	47.3	8.9

表2 色々な宗教の教えは結局は同じである

色々な宗教の教えは結局は同じ	賛成	反対	その他	DK
インド	87.3	12.3	0	0.4
日本	48.1	27.4	1.1	23.4
北京	59.6	30.7	1.4	8.3
香港	71.3	23.3	0	5.4
台湾	84.2	14.3	0	1.5
韓国	65	25.9	0.2	8.8
アメリカ	48.1	46.3	0.3	5.3
シンガポール	76	19.4	0	4.7
オーストラリア	62.6	33.6	0.7	3.1

表3 宗教対立はどう解決するべきか

宗教対立への対応	自身の宗教を 広める	自身の宗教を 理解させる	他者の宗教を理解 しよう努める	理解出来なく とも認める	その他	DK
インド	29.9	26.1	21.1	22.3	0.1	0.5
日本	0.6	3.4	21.1	58.9	1.1	14.9
北京	1.2	4.1	16.9	74.1	1.2	2.5
香港	1.6	5.3	8.5	82.1	0.5	2
台湾	13.3	11.1	11.9	62	0	1.7
韓国	4.9	15.2	16.6	56.9	0.5	5.9
アメリカ	5.5	6.4	20.1	64.3	0.8	2.9
シンガポール	5.7	8.3	15.9	66.6	0	3.5
オーストラリア	3.4	3.3	14.9	76.4	0.6	1.4

また、インドでは宗教の社会での役割や政治との関係性、という側面でも他国とはかなり違う傾向があるようだ。上記の表2のように、インドでは色々な宗教の教えは同じ、と考える人の割合はとても高く、これは近年宗教対立や新しい形での原理主義の台頭が目立つ国としては多少意外と言えるかもしれない。一方で、宗教対立への解決策という意味では他国と比べ「理解出来なくとも認める」という比率が著しく低いのも確かで、逆に積極的に自身の宗教をアピールする、という意識も見られる。しかし、このように東アジアとも英語圏とも違う独特のパターンを示す宗教意識の尺度もあるわけだが、一方で他国とあまり変わらない分布となる設問も存在した。

表4 霊魂や魂は存在するか

霊魂や魂は存在するか	ある・存在する	あるかもしれない	ない・存在しない	その他	DK
インド	43.8	28.7	21.1	0.1	6.2
日本	32.4	43.2	17.9	0.2	6.3
北京	17	23.4	56.3	0.1	2.7
香港	41.8	28.7	25	0	4.5
台湾	40.6	45.4	9.3	0	4.6
韓国	26.3	33.7	28.7	0	11.3
アメリカ	64.4	27.4	5.9	0	2.3
シンガポール	56.5	29.4	10.7	1.4	2.1
オーストラリア	53	30.7	13.1	0.4	2.7

表5 死後の世界は存在するか

死後の世界は存在するか	ある・存在する	あるかもしれない	ない・存在しない	その他	DK
インド	30.6	34.8	24.7	0.2	9.8
日本	18.8	44.9	26.2	0.2	10
北京	9.1	21.3	64.4	0.6	4.7
香港	32.2	32.5	29.3	0	6
台湾	35.3	45.4	14.1	0	5.1
韓国	23.4	27.7	35.7	0	13.2
アメリカ	50.3	32.6	13.2	0	3.9
シンガポール	52.8	27.5	16.5	1.4	1.8
オーストラリア	37	35.6	23.4	0.3	3.7

表4、5に見られるように、いわゆる超自然現象への意識、という面では中国（北京）が共産党支配の影響からか否定派が多いのが目立つが、それ以外はインドを含めほぼ横並びの印象である。これは、ヒンズー教が霊魂や輪廻という概念について極めて洗練された思想体系を持つ事や一般的なインド人の信仰心の強さから考えると、意外にも見える。回答時にそれほど深く考えられていないから、とももちろん推察可能ではあるが、今後のさらなる検討課題と考えられる。